

会議名	アグリビジネス創出フェア2006
開催日時	平成18年10月26日(木)13:00~17:00
開催場所	東京国際フォーラム 展示ホール(東京都千代田区丸の内3-5-1)
主催者	<p>(主催・共催者)・農林水産省</p> <p>(独) 農業・食品産業技術総合研究機構; 農村工学研究所、食品総合研究所、  ・(独) 農業生物資源研究所、・(独) 農業環境技術研究所、・(独) 国際農林水産業研究センター、  ・(独) 森林総合研究所、・(独) 水産総合研究センター  ・(独) 家畜改良センター・(社) 農林水産技術情報協会、(財) 食品産業センター</p> <p>(民間企業)・(株)機能性ペプチド研究所、東海物産(株)、雪印種苗(株)</p> <p>(大学)・宇都宮大学、帯広畜産大学地域共同研究センター、東北大学、  (都道府県その他団体)・群馬県、農法 茨城中央農業事業団</p>
参加人数(概数)	約6,500名(主催者見込み)
1. 会議の概要 (500~1,000字程度または議事内容の資料添付)	<p>農林水産・食品産業分野における産学官の連携活動強化のため、研究成果の事業化、技術移転、市場開拓などのビジネスチャンスに場を提供する大学、官民試験研究機関等が一堂に会する農林水産省ほかの団体が主催・共催したフェアに出席して、収集した関連情報から、地域活性化のための畜産技術研究開発課題について報告する。畜産に直接、間接的に関連する出展団体と展示テーマは、次のようなものであった。</p> <p>(主催・共催団体)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農林水産省・農研機構支援センター; 研究開発支援施策・事業と成果品</li> <li>・(独) 農業・食品産業技術総合研究機構と傘下研究所・地域センター;  農業情報ネットワーク、「ブランドニッポン」、健康家畜から畜産食品へ、生物機能利用技術、農業機械・制御機械と施設等の新技術、など</li> <li>・(独) 農業生物資源研究所; 遺伝子機能解析・診断・組換え技術、など</li> <li>・(独) 農業環境技術研究所; 安全・安心・制御次世代への県境資源の承継技術、</li> <li>・(独) 国際農林水産業研究センター; 世界の食料・農業・環境問題への JIRCAS</li> <li>・(独) 家畜改良センター; 牛肉・牛個体識別情報のトレサビリティシステム、新技術</li> <li>・(社) 農林水産先端技術産業振興センター; STAFF の産官学連携橋渡し活動</li> <li>・(社) 農林水産技術情報協会; 産官学連携コーディネート、新規事業の紹介</li> <li>・(財) 食品産業センター; HACCP 関連情報データベースとトレサビリティシステム</li> </ul> <p>(民間企業): 45社が出展</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(株)機能性ペプチド研究所; ウシ体外受精卵作成用培養液、ブタ胚発生用完全合成培地、受精卵呼吸測定装置、</li> <li>・東海物産(株); チキンエキス由来ペプチドの抗酸化機能性食品素材としての開発、</li> <li>・雪印種苗(株); 環境関連共同研究成果</li> </ul>

	<p>(大学) : 26 大学が出展</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・宇都宮大学 ; 高圧誘導乳清タンパク質ゲルによる新規食材の開発</li> <li>・帯広畜産大学地域共同研究センター ; 生ハム : ウリカリップの製造法とその特徴</li> <li>・東北大学 ; 動物系、植物系および微生物、食品系における最近の研究成果</li> </ul> <p>(都道府県その他団体) : 20 団体等が出展</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・群馬県 ; 公設試験研究機関の開発研究) <ul style="list-style-type: none"> <li>・農法 茨城中央農業事業団 ; 家畜ふん尿等の有機残渣を低温灰化方式により、高品質の有機肥料に再生するシステム)</li> </ul> </li> </ul>
2. 今後の研究開発分野として重要と思われる関連発表課題・話題提供名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この展示会には新たに開発すべき畜産技術が殆んど網羅されており、当協会がこの事業で取り上げるべき課題の発掘についてはより範囲を拡げた分野からの情報の収集に努めなければならない。</li> </ul>
3. その他の発表課題で関心のあったもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東北大 (麻生) による異常プリオン吸収メカニズムの研究成果は、ネズミによる実験結果であるが、BSE 発生メカニズムの解明のため子牛による研究に発展させることが期待される。</li> </ul>
4. 今後研究開発課題採択に当たって参考とすべき事項等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農水省関連の研究資金による産官学連携の共同研究成果の出展が多かった。当協会の独法化した大学を含めた民間活力活用の助成・委託事業の実施にあたって、新たな研究勢力の参加を求めるためには既存の開発資金との競合を避けて、より良い課題を採択できるような特色と魅力のある仕組みを考える必要がある。</li> </ul>
5. 会議の所感	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回までと比べ独法化した大学の出展が多くなり、一般消費者の姿も見られるようになった等、時代の変化を感じさせられた。</li> </ul>
報告者	針生 程吉